



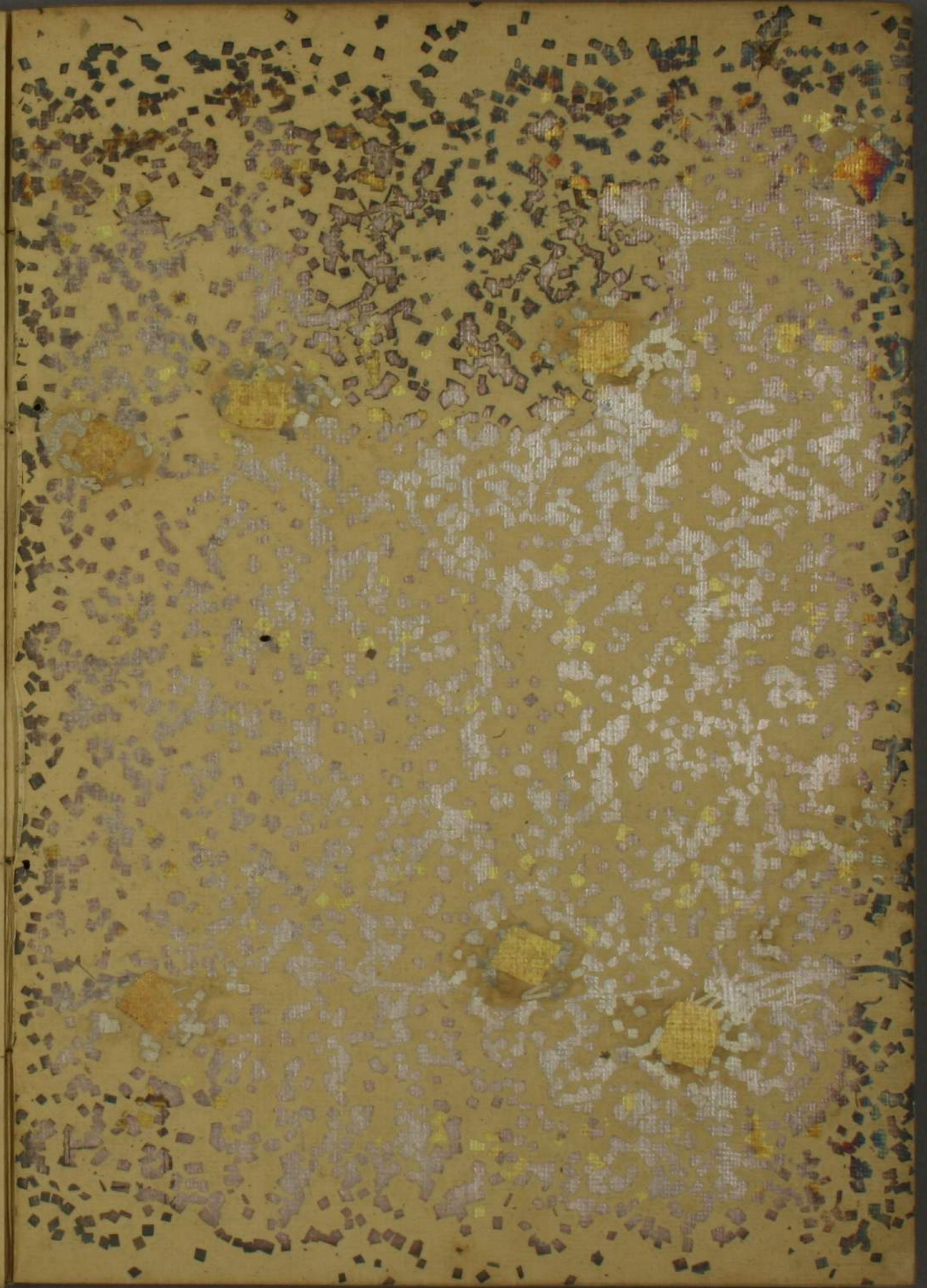
藍觶無底抄
こわら

特別
~12
1077
49





利
1077
48



早蕨

年立三十三歲
花多三十三歲
由八桐遠之

亦四歲

中納言

正月自阿國梨方送上筆於中
君方奉

源中納言系兵部卿宮治於
梅花猷給奉

物語字治中君渡京奉
二月一日比中君可移二條院給奉

除脹回奉

源中納言奉御車御前
人々事

前日中納言若渡守給事
若事

与弁厄物給事

所出家事

中君与弁厄物預備名所給事

秘鏡日事 二月七日也
是日也

十一日也
之故裏事奉同

祠云七日此月乃さやう
まき

いそよりと云

亦余日中納言可渡三條文給事

又音六君御裳着事

可渡出所御給事延川

源中納言望二条院梅系中君

御方給事

号々文出逢給事

早蕨 花は秋并初為巻石

秘但奇 早蕨トアリ 初ハ蕨アリ

アリ 花同

^河 こ乃喜のきれあつらんをさ人此

こよははあか萩のほりひ

松初 こひはくくーはうー

こよははあか萩のほりひ

こよははあか萩のほりひ

こよははあか萩のほりひ

養父上如未

花

萱木一葉此去のまあり

私年小お透り

萱木四歳角総此次年此去

萱木四歳より一あけまの

次年のま

萱木四歳

至りしつら福く去れひりともん
まあつけて

何の光や物しつら福いさのこ

ゆりやしつら福いさのこ

川方日昇中まれんあうらうら

去ハ鳥の光あり去年婦

君しつら福いさのこ

とも去りつら福いさのこ

と海とつら福いさのこ

と林藪とていやはききおに
ひまゝつらうそれいそ路乃里
とらふ之 昇 始とてせ始ての頃
年此去の事し

いってわくあゝ人よまは

大君うふて申え乃ち少也
ねあ別ハあよとくれあひ
より始とてらたけいお前巻よ
あまこふみくもういんや今い

ねんいしうりふく

とくおと事とてお末はうりて

神不備お末乃 抽子ありう方か
とてしうり上句下句とていお

つとていお

昇
方おしうり上句下句とていお

上句とて下句とていお
上句とて下句とていお
上句とて下句とていお

ついでわくせうふん

奇れよ下とほさうし

秘系のみ末うし

心ひしけとら

又しあわん

宮内ありし

あしとら

八ふん

松八ふんより

ゆし

世よとら

世間の無常

つくろふ

行しむ

生死のうら

とふ

うあ

又の大渥

^義字治山此河宏留の文

とけひくく路此山年

^義ハ文大悉れおんとねん

くひくくくくかうくあよふ

^何嶺 毛詩 敬電 日註 土筆

本草疏云 周秦曰嶺奇魯

曰敬電俗云其初生似敬電脚故

名くくく 敬 右別 楊欽 周豆

也くくく 然ら 和國通用也

くくく(のくくく)

^義佛法僧り物成缺くくと信書

くくくく

くくか

似合くか詞くくく 字可動

ていんくく

くく

くくくく

^并又字くくくけく書く

秋

大略又うらうらと中々うらうら乃
さうはみせは初うらうらと
やうとこれのうらひのみ放て
やうやうふんせそしけるは
乃汝活ありうらうら 美

宇原山河宮祭

君うらうらとあまのまきとほらうら

ほのくとあまのまきとほらうら

花 五輪集

うらうらとあまのまきとほらうら

ほのくとあまのまきとほらうら

三多院
今

秋

故八文の仰時乃お例とよまれ

うらうら

秋

ひーのうらうら

美はのうらうら

大事とあまのまき

秋

中まのうら

阿宮祭のうらうら

うらうら

秋

大事とあまのまき

方北感。知る所

かへりしにありしもねがはるるあ

ついで

白文乃西又よりしらぬ

しん 美

かへりし事ゆへ

ねがはるる

也中志

こりきりしりりるせんる人乃

らみしはりれりれりり

秘

い奇巻の名もり八文大志る

とと海しりりりりりり

にんりりりり

美門方り海

秘

んぬんりりりりりりりりりり

らみしはりりりりりりりりりり

ねがはるるりりりりりりりりりり

いしりりりりりりりりりりりりりり

秘

中玉乃りりりりりりりりりりりり

さへくははめがし

女 大志のゆり白文はめしうら

あしや 女

じくよとあはくまら

女 ありやとあつふせし大志はめら

也はあめあ層とれんら知

紫 翠

みくひあつりー行りいともくあて

女 人の兄弟はる白文ようら

あけあはくはて

女 ありやとあつふせし大志はめら

あしや 女

みくひあつりー行りいともくあて

女 人の兄弟はる白文ようら

あしや 女

あしや 女

あしや 女

あしや 女

方あつりやとて

かろはあつりや人ののこひくを

秘 葦のあつり

弁 葦の事伝はるる

あつりいふやとて

秘 葦の太長伝はるる

いふにちるる

秘 葦の熱湯と伝はるる

あつりいふけの心あつり

秘 大長力事と葦の伝切りと

事ととつりく中長此の

とつりやとて

秘 葦のあつり

白あつり

あつりいふけの心あつり

いふ

秘 正月あつり

秘 正月あつり

親

あふ下あして作文あてあふ
く久しく終らうぞ 美

よあふあふ

あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

美あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

美あふあふあふあふあふあふ

白あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

秘あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

美あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

花

ふらふら 花のよき 花のよき 花のよき

花

花のよき 花のよき 花のよき

花のよき 花のよき 花のよき

花

花のよき 花のよき 花のよき

花

花のよき 花のよき 花のよき

花

花のよき 花のよき 花のよき

花のよき 花のよき 花のよき

花のよき 花のよき 花のよき

花のよき 花のよき 花のよき

花のよき 花のよき 花のよき

花のよき 花のよき 花のよき

花のよき 花のよき 花のよき

ましてさつら文ありしう

^叔 薫る人海りうくまうして白文此

文くしうみゆされくし

^弟 薫の意人ふあはれわひ

人の心ありて

^花 ころみかううさ世中いあまう

人のうつるあうらん

まうけあをわれあうら

^筆 ころ人の心う時々の意あめと

まぐくまらあうゆくこく今乃

眼前乃折かほくううてあ

つれらうげけあうしう

まうさああはて

^美 銘さあのうゆく

あかああうとさえけいんああ

ふんああう

^何 其のあのかうああ梅む

あうあああああ

秘

け二人の白いところうたふら
うらまはせとつかり

受

川方まのよのまふら
私灯のまふかこつて白
葉のまふとやふらやふら
くしと白いめまふら
うらまはせとつかり

よにまふらあつらりけれ中
らむらひと

秘

葉大志り実まらぬら
とらりけれ

葉大志り葉との実のま
白のまら

弄

葉とあねまらあつらりまんと
葉とあねまら実のまら
あつらりまら
又あつらりまら
あつらりまら

乃ろりありきり

^秘 白のねんまひく

さうみうともよのよんえまひて

^秘 類みう又ゆきうつてあひ

まひまて

ちけいまのうらと

^秘 白文の董のらゆきうき

りりてのゆき

じ務のひりあか

^秘 董の胸中うききりあま

かえ

あまのくらく

^秘 白文中華紙入るる人

うのゆき

さうみうともよのよんえまひて

^秘 董のねんまひ

あまのくらくのゆき

^秘 董の中君り事紙あ

あはれしきしきしきのねさのさる
さしきしきし

さきの結介せし事なれども
あはれしきさのあやかしらねやうに
さるさしきしきし

あはれきさのさるさしきし
あはれしき事な

とくしきさやさしきしきし
さるあはれしきさあてしきし
箋

かたしきしきしきしきし
あはれしきさのさるさしきし
箋

いしきさのさるさしきしきし
さる

河奥入作切文

あはれしきさのさるさしきし
いしきさのさるさしきしきし
箋

あはれしきさのさるさしきし
いしきさのさるさしきしきし
箋

あはれしきさのさるさしきし
いしきさのさるさしきしきし
箋

花

ふみれ葉大おろし婦云れ中表
とゆつり事と云ふ昔々
さうりれおろし油うし合
合事と云ふうしうし
さうりの巾着あさひそま
まれれ口物 空河
いそせの枝のうしうし
けきらうさうの枝と云ふ
さうりていりて葉と云ふ

昇

ふよふし此奇大うし
さうりやんはえりいそ
さうりあまふしあまふ
おろし又いそせの枝と
さうり源氏の一か
中表りいそせの枝と
さうり事りあまふの事
さうり
さうりいそせの枝と

花

とひたり人はあつてあつて
早くさ一程よふこころい
ありしとさふかの人ほてあ
てし子よし
あしとみよし人
ほてあつてあつて
事れありしやうれい
とさふか
とさふかのさあ

花鳥美一紙 美

おれうらまゝくちくさあうら

秘 美の心中好勝く

くささ事なうくさあうら

美 是の字舟れ事成るさ出へ

ち地く

あつまうまをささうら

美 今うに美の用意さあうら

白きあつてあつてあつて

若くしてありしは蓋しとせ
くわはくひくひとあつて
されよとらして申まれば
ふつてい合されし
さそとわたりぬんよつまそと
葦のうりりらゆらふされ
か
二条院へ申まればさうり
しこあともたつらうと

細
宇治文へ

ころろとわくろそん

花
かくしはくせはるおん

依りぬのしよのわね

今葉宇治のうかまあはるん
事しとらんとてはつ

ふり
心と花

身
いさくたのちとひさう

就世とをばしてあはるんま

あつりえれいしーんくとりま
つ奇れをとりあうり里れを
いりりん

秘

申者の色くさるにわつせを
有外んーのをとりあうりま
まにへるにほりりーまゆり
ゆりー前の表りーもゆりの山さ
とり外んーと字法とありの山
里に志るーしてきりまると伏

後海船勝

ん成字法と志物ーしてあうり
ゆりの依りの里ーいあうり
川方りまるとに被せーいれい
け里ととまると被せい魚外ん
下に字入りり
私ハ家のいりーとつり
あくれりれりりーのあひー
事前よとつり

伏見在大和國 日中紀云 安康
天皇崩菅原伏見野中陵葬
其系也伏見の里此の所より
一里の所の所にありて
あつてせんといふ人もありに
つゝとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつと

い中方の大和國よりつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつと

あつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつと

さつとつとつとつとつとつとつと
中系此の所ありて

あつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつと

あつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつと

あつと

秘

かく食うてはくは白りか
ふふ事しあしくよのこ
わふ事しあしくよのこ
白れ中毛織うじ
いふらん

中毛織うじ

三月のほつら

二月のほつら

花の本

秘

庭の指く

み祇の露のきし
よのうと世あにあぬ

喜慶

花れさ里に

よのうと世あにあぬ

せり

常世 日本紀 蓬萊山

花 どのうとよし 次磨巻

足しぬり古の此事もさへ

優婆塞の文乃昔此京のやけさ

りし事とさへ

吾輩をけしとの言はれぬてゆけ

つて宇治山里にけり旅のともさ

妙く

吾輩をけしと見えさへけり所は

乃奇りぬてさきり志留我もけ

るもけりてさきりけり吾輩

とあふとされい宇治の山里に

て此事あれいさねり吾輩とが

けりありし路

とさきりけり吾輩の故に

ありぬ事とさきり吾輩のさへ

とさきりけり吾輩の故に

くく吾輩の本とさきりけり吾輩

のさきりけり吾輩の故に

し路あり

妙
しとよしのあつとつらうはる春
よみくちう中君の都よりて
生れまひし人うまひいしよ
そのまひやけてあつたあよ
ゆりまふと云く 昇

ふらひよははまう
山里よりおと都へ出まひて
人おろしあまふらうあつて
乃中君れをさるゑりて 恐怖

終ふ

水くしつらうあつてあれ

何
こころあつたまよふさよをいぢ衣
こころあつたまよふさよをいぢ衣

花
あつたのあつた三ヶ月

妙
大志土月うしやうより九十日

昇
のあつた二日月あつたより
はなあつた 見河海

みそあつたあつた

除服事

河原より出て解凍より久あき
る見申此除服三月く限あり
あれいぬさともせあつとをり
る父母の除服しつゝに若らや
とさうりあにあささむらす
ふとさ

花

みう紀しあささるゝの輕服のま
つるあきと除服の時いほさ
てりつはさるあふ川のあき
あささる

母

并

申あきのあきあはさるあき
あささるあきあき

わや

母

母とさるあきあきあきあき
母れあきあきあきあき
母とさるあきあきあきあき

母

申あきあきあきあきあき

始つり

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ
三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

三河くまのつとを記しよとあれ

乃心もさくおつとさるべきり

^秘

一説中意亭とさういふは是の意
のちめて終へ——と自れ中意の
以後とさひやりて大君の事と
明らきふとさひ——とさや中
意に陰脈なりともみりまふと
也 等

^昇

意亭と 是等て用れ中意に
とさひまふ

或夜中意亭と 是等て陰脈
——と常乃意亭と 終りぬ
つらつらのこころはまじりて
意のひととくはありしうさ
もその中意にぬれぬとさる
意の衣意のひととくは意に
なれん

^記

意の衣と脈の事とさる
この記とくは陰脈の事と

字に多くいふとまよふて

女 幸よとふ事成りけりて幸の

地よりけり

はらうれがののりき物

女 京へ出まふまの料へ京へ

くたにも後うらさめり

祈りにつきていひたれぬるゆれ

女 善の祈んしうよふくまふ

ゆりんとまれりゆりゆりゆり

ゆりゆり

女 実好るるにむらり

物さしむるせまのり

ゆりゆり

女 好まふ事成り

ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆり

女 善なる事成り

六日申末の七日に京へ

と終つていふ海にひらきわたる
つふあつて

まの終つていふ海に

秘 音亭く

いふは終つていふ海に

秘 大毛あつていふ

終つていふ海に

秘 大毛あつていふ海に

つふあつて

いふは終つていふ海に

秘 あつていふ海に

つふあつて

私は終つていふ海に

あつていふ海に

いふは終つていふ海に

秘 権りいふ海に

いふは終つていふ海に

美 いふは終つていふ海に

うらあそん

大君此事成るを

うらひをまかり

地志の道なり

中君のまじりて

よあ午のまじりて

河のよあ午の

河のよあ午の

河のよあ午の

京へまじり

京へまじり

此事

中君の海へ

あ午のまじり

花妙

月あそん

美のまじり

あそん

秘 印 振 じ ゃ ん ち ゃ ん

私 大 志 の ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん

ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん

秘 昇 中 志 力 詞

中 志 力 詞 中 志 力 詞 中 志 力 詞

心 ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん

秘 昇 意 力 詞

意 力 詞 意 力 詞 意 力 詞

心 ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん

秘 昇 敬 婦 志 力 詞

敬 婦 志 力 詞 敬 婦 志 力 詞

秘 昇 表 志 力 詞

表 志 力 詞 表 志 力 詞 表 志 力 詞

さるる出るる

はるせぬ所ののわらうる

^并あはれぬの事

あはれぬの事

^兼中もれぬ所の事

兼 兼の用

はるせぬ所の事

てはるせぬ所の事

^兼あはれぬ所の事

あはれぬ所の事

あはれぬ所の事

あはれぬ所の事

あはれぬ所の事

あはれぬ所の事

あはれぬ所の事

^兼あはれぬ所の事

あはれぬ所の事

あはれぬ所の事

花

じりまうきとらひ物申曉と

翠

とつとんひつとす事と

香申曉とらひ物申曉と

美

るるわ

世とらひ無切よひつとす事と

奴

俗よくつとらひ物申曉と

俗よくつとらひ物申曉と

次と

松つとらひ物申曉と

人乃心とらひ物申曉と

奴

中とらひ物申曉と

美

我心とらひ物申曉と

じつとらひ物申曉と

乃とらひ物申曉と

屋とらひ物申曉と

の古書

今とらひ物申曉と

やとらひ物申曉と

けとらひ物申曉と

花 方あられ只又初あつてさき

中務集花の名れつとてさき

舞 くに宿成れりさき

中毛初或本里とて心回宿成

いれとさきとさき物成ら

舞 この初なる成りて下

舞 川あつる成とすけれ一葉い

宿成らつ積と修けつとて

成物とくこの初とて又り

意此前の初成りけりい

成とつとて初やとてサカ

つと成らとくさこの初は

とつとてつとつとて

舞 本とてとあつり川あつり

但方とるさつり中毛初く

法の里成出つとてさき

葉の山系と事とてさき

とて

私奴の始ノ義并美ヲ美を冠
前よりけしうーん海ありんす
とさるあ平一のうらうーあわく
始りすうらひ宿くさうわん
うらうら山里と志さふ一意
こー路くくひきりて 美 申志乃
意くあよの始りぬ
いよりうわわくまふわん
美 大君ニ始り申志 美

いとくわく

美れ申す

その上れとけてもいり

美 大君れらひわら申志とさひ

うーあわく一時的のりて美れ

あふ用定

うらひをさひたさうー

あふれとさうまうーいり

美り

まや昔れと心成りてしる

ち此

伊指也

ほやあゝあまやけし此まゝぬ

神身いひつゝあまの身なり

新

川方業平此二条右此のりとも

しよとくあり

必

川方ノ詞ナリ一かゝりとして

これと下此心二条右と業平

此節かゝぬとみけさる

心あり在み心と業平同

うとくあり

美

心成りしりし終りしりし大

志と心成りし中志と業平同

し事し

心成りし終りし終りし終りし

つとくあり

けり

さ月成り花橋の心成り

けりし心成り神の心成り

秘 づらふに端へ并

兼 川舟と月舟の

はまのまきりりせと

秘 大志はけ旅とりてあそひ旅

并 一ゆと

りてあそひまのりゆゆと婦

君のゝ成らふや一まよふ今

立らねん事ととらふ

中君 思ふんともあつたぬよ山を

ひらねのゆか旅のちとす旅

并 中志文くワる身はまのひゆか

ゆとあり又婦志のま旅ゆに

ときさゆ はまねたれの上并

秘 大志はの成まのありりゆ

つけて一入らるるあつ一長中志

乃は山里とるるゆとま前あは

しと石田く

兼 是ハ大志は事ととらふりんか

あ〜とわういん

私みるんもあじしよ海ふま

中まの系〜とらうゆよふと

うらまふや〜らうゆよふと

その折る〜梅の白いよ入

大系れ〜とらふるま〜

か〜とらふるま〜とらふるま〜

葦のとん〜ま〜又葦れ〜お

り〜らゆあけて〜ら加〜

神ふ〜梅のかり〜ふ〜あひめて

新とめ〜つゆ〜や〜とらふる

何^後〜とらふる〜とらふる〜

新とめ〜風れ〜とらふる〜

中ま〜と婦志のかり〜とらふる

神ふ〜とらふる〜葦の〜とらふる

あ〜とらふる〜とらふる〜とらふる

れ〜とらふる〜根あ〜とらふる

まの系〜とらふる〜とらふる

と根ありしはけしきなり

^秘中意と昔の如くみしとて

しそありに只今却へ出給ふ

そも根根ありしはけしきなり

中意と昔の如くみしとて

^秘中意此事候なり 根こめ根

ありしは 白人定りしはけしきなり

私意の一事ありしはけしきなり

まりしはけしきなり

中意と昔の如くみしとて

^秘中意此事候なり

中意と昔の如くみしとて

^秘中意此事候なり

中意と昔の如くみしとて

^秘中意此事候なり

まりしは

中意と昔の如くみしとて

^秘中意此事候なり

かろりしそけり

并乃ん又髪とけり

也 昇 義

一説云けんといふ

志升てり

蕙此り

やあられとんぬふ 蕙のゆき

柏木 八丈木 蕙此り

たにのあけとけり

蕙乃初

いそむけり

蕙の時く

後あつり

いそむけり

あつり

いそむけり

あつり

いそむけり

川可會此跡うらむり
不及川可

他十とせりひきん

大志此事我成とてあす

不くその世成らふあま

何林

大志の我身ひつもの

かくその世成とうみつ

活もといにもく結ん

秘

かう此事とむひけ

ふさうや

いしうひかきあま

意のあつらひ

むふりかき後か

えけ危の時よは

えふたにやひり

よししくいへ

周曆

又竊竈 文選

又周

ヨシニウトミヤコアリ

白文集

又唱ウラトウ

ミヤコカサリ

北仙客

たりのとむていあしのかた

秘

大志とあしくあしひゆよ

ましとあしくうさるとあまを

うさるとあしくうさるとあまを

うさるとあしくうさるとあまを

おまよ

まじりけよなるかげむか

秘

争うさあし

うさるとあしくうさるとあまを

うさるとあしくうさるとあまを

秘

うさるとあしくうさるとあまを

うさるとあしくうさるとあまを

秘

あしとあしとあしとあまを

あしとあしとあしとあまを

あしとあしとあしとあまを

秘

あしとあしとあしとあまを

あしとあしとあしとあまを

るしあつあつとて西の空へ

うらひをこころに

義

うらむをわかれうらむをわかれ

ふかゆふ

うきとてはなれやうらむ

秘

あつとてはなれようらむとてあつとて

さあああ

義

意の初め四十八輕戒ノ十重禁

戒とて十戒としそれとて戒と

しとて身一の殺生戒也殺とて身

とあけけしとて殺生戒也

うらむれん也

かろきしにんし事

花

波羅密此梵語と説く列傳

岸とて

并

けけとてくくあつとて彼岸よ

うらむ事とてうらむ事とて

と定んん也

秘
入水をしてしめての秘此割戒よ
そらひの徳建の彼岸よりいさか
事しるさかの人しと也
殺生戒と破りての彼岸の
らん事しるしと也

私よりしるしと也
あそと人との神と力成りけか
しめての彼岸よいさか
又もと人彼岸にいさか事此
さうり船の心と也いさか水
船より志の心と人事の心
いさか事しるしと到彼岸也
いさか事しるしといさか事しる
との船也

おんてしりくさるるいさか
秘
説事しるしといさか事しる
事
命と長くいさか事しるしと
いさか罪障大いさか事しるしと

也

あーてゑとていせうとて

身とあまん海の川はあつても

あつてもせむにあらぬとて

花花あつても川を流れていゝとて

あつてもせむにあらぬとて順

あつてもせむにあらぬとて

あつてもせむにあらぬとて

あつても

あつてもせむにあらぬとて

あつてもせむにあらぬとて

あつてもせむにあらぬとて

あつてもせむにあらぬとて

あつてもせむにあらぬとて

あつても

あつてもせむにあらぬとて

あつてもせむにあらぬとて

あつてもせむにあらぬとて

あつてもせむにあらぬとて

私奔二新... 不復是... 子... 初...

お...
奴

申...
美

夢...
美

又...
美

宇...
美

よ...
奴

奇...
奴

らん...
奇

ひ...
何

か...
何

し...
何

お...
何

神...
何

後人...
何

弁君るくくしてあまはあつ井と
ふあまはよせりや
和神浦お好國之徳屋徳と
海へ海へおうく——との字て
みともあていさくも
うきこゆれん
中巻弁尼の中とくさう人
乃の足ふけとくやじんを
と有るん

あふくあふあふのくあまにさあはて

うきこゆれん 何故 わるくわんを

ひと目とおふふわれあひあひ

中巻地あくあふあれやとん弁

うきこゆれん 何故 わるくわんを
うきこゆれん 何故 わるくわんを
うきこゆれん 何故 わるくわんを

秘

中意乃方くあはれやとて
あすしへたふ此神あしからん
と大うまをら波ふらやとの
りりゆあすへ川方河海ん
ううまゆ家秘一乃方とく
叶り

箋

い方結白此つりす方くあし

世

秘

すみけん事と

中君年よの如少詞

箋

中意此詞句ま乃つ成たひ
うあくうれへ又あ人きらう家
事しとあじんかたにう海の
里成河きしとあやと

秘

うかやうりあうんも

たふら紙りう

秘

ひりたん乃とせけけひまひ

大君

箋

大君此細度と成年のだよ

のうゝとていふは

かゝるよりゆゑとていふはつゝはな
とていふはうゝの世と

秘 秘中君は初

大志と一版急慕もくとして
と行行しめさうはし

弁 弁の歌くこゝのうゝはし
婦君の事とていふ

何 何の世より妙の事とていふ

じうは世とていふは

うゝはこゝのうゝは

弁 子は母成ふに

乃れはこゝのうゝは

秘 掃塗とていふ

以車とていふ

秘 以じうとていふ

倍奉れは車とていふ

以じうとていふ 秘 白とていふ

心りし物くおわらる

昇 我としづつて心しあはれ

中へこめ殿より

等 夢の思ふいふまを

心あはうしうしうらあんと

秘 中へ心の思ふ

大猫の君とみ人の子

中へ心の思ふ

中へ 中へ心の思ふ

河原守治川よあけてまうら

河原三 いぢりけいそりのそわらふと川

うまーまかせいれあはれあや

後撰後伴 ちりあはれいれあはれあや

うまーまかせいれあはれあや

九条大下集 かしふせとありまらあはれあや

わそらばらり川しうらあは

九条大下集 いりうけらあはれあはれあや

かしれとありまらあはれあや

乃方此心あり

新新しははあのみそとわうれのみ奇れ

心るうへー

入水乃事りめていあれらうあうへ

しんがはは用ふは物しとる

捨さうふきあのをうけさせい

いありしと心解りてよあゆ

辨乃尾の心くこころあり

中まれはよ弁尾の心くあり

ころりあうしと心あうくふり

あつらく 箋

今二人 色あしつ無一は事としわかれ辨と

言あつと先とゆくうらわれ

け弁秘のきううらゆきあふる理

く将先

いまひとらうとる車にのれへ事

女盾るうへ

は今一人の証ととみくれば弁の

浦一ゆりくさや一ハ公言大志此
事一之只大君くさりりて
二絶れ

ソ何事とく人々か人くゆて
か乃所くは

^界け女房くも姉一志く心とせ
さうく一人くいほく一ハ中志
事一のこら候入て事一
すらく

大君く一ハ女一人く

おさうりも妙くさつふと海とさ
中志此志よけくこののろみか
とすつ候くうそほくく人々
みりおわくもゆけく

山く

中志いけくからとけ一は
尺短く

^美らま一山道くもら面白

儼然うりたる〜ね〜と申す此
んま〜りぬゆ〜ら〜ん

清〜まにわ〜ら〜ら〜

白文此書しえ〜と今と
りうにらひあやま

七日此月のまに

あやま〜ら〜ら〜

不〜むれい山〜り〜り〜り〜

よにすみ〜ひ〜山〜ら〜

わ〜あり〜ら〜ら〜ら〜

あやま〜ら〜

月い山〜ら〜お〜ら〜ら〜

こ〜山い〜ら〜ら〜ら〜

あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜

と〜ら〜ら〜ら〜ら〜

ハ〜ら〜ら〜ら〜ら〜

ひ〜ら〜ら〜ら〜

私中志此山里紙出〜ら〜ら〜

らるれしを九月の山崎から
物あれそと世しりきみとひれ
くくそ品今山一のんとす
あつ先出てゆく身と思惟
あふつと入事うと意あし
心あつて——我力とふつに
あんしつとせとせ

こぼらうて津井にのりんと
^秘我々山里成りけふ事と云り

行く末うらわらうに一年こら

何ゆとさるん

^秘白きよあひしきりしゆさの何
事とさるん

^手かやうの中よ此京へ物あつて
白きゆの疎きゆとさるん
こやゆとて遠路のわつと
しあふとせれあてさるん
物のわつとせ

これにさうのちうてよめいんがら中に
こころ殿のしつこしきさうりさう
このころいんよめいんあつらう
さう

け二条院いんさうり此取相堂此文
長より源氏世よる人けさうり
て又白文此西傳取

白車此いんさうりよめいん
娘殿乃礼

白文いんさうり此礼申さう
乃西いんさうり

いんさうりが此事いんさうり
娘いんさうりおほいんさうり
事乃いんさうり
白文の心好文さうりいんさうり
此事いんさうり
いんさうりいんさうり
いんさうりいんさうり

美
くくめ字法（おく）海
時の事とつしんくさる
とくといぬ中（文内）此は
許容く

かりあきまゝ 河不女嫁

亦日あきり此か
えんそん

意三條より紙新造ありて日
月亦余日移徒多し

ころがふ日

之條より紙作り出と対ふ

意のり

ふ乃院ちりしはとあれのきりひも
きんそん

二条院より糸院移らるる
治らりけりしはとあれのきりひも
ゆりしはとあれのきりひも
りめりしはとあれのきりひも

何んよ、うてりてお

白文の西意切乃折々

うきうき

美の巾巾くう折々

梅一三

りのうとわとせ

うううとわとせ

うううとわとせ

うううとわとせ

うう

うう

うううとわとせ

うううとわとせ

うううとわとせ

うう

うううとわとせ

うううとわとせ

うううとわとせ

より色と強水類と或又仔細
物終り也。一、あやうきうらや
うよまきん百葉奇あまう
後高山のあまうの作物終り
如物の中當りの空輝来り物
より中告すれしは好る開白
くふつとみ此浦さひてと極し
後法大寺在る府あり此橋紙と
てられのあしと物造りしと志と

あやの氷海乃地名くあやの同
心白氏文集の潮光とくあや
け半々、或又那波よまきんあや
とくしとあやとくあやとくあや
てあやの地海く

^并百葉奇はすううらうらうら子
細史河海とくしとあやとくあや
あしとあやとくあやとくあや
片是山の志あやとくあやとくあや

言儀の志れひてらわの志山也
夕日るしれらわさてらわ
百葉寺とすう川ありとすこ
河海よりあり葦の茂り
まかあり林とありうら
ありー物成て志きてまは
名湖光女心ありー田舎
志れてありやう山やう海
別ありありー只ありん
とて志れてありやうあは川
ありやうあり 百九志ありや
うの湖あり 河海に百葉
ありありとて 花ありと
ありてありありんつらあり
ありてありありの入りて志
ありとて 又或子内親と百葉
ありありの海やありあり
ありありのまありとあり

青なりや 中々羨あり

多

これいさきの古守所末と云て
口すきみうかしく物ありまじわも
いしに逢るそくく物とくくか
るの實りやいかにしうとそ
ひやういし物つる取まじわも
物とありひうく物とくく
うーくくも中々羨あり
よくく物とく物とくく

さきのさくさくは三光院ノ院
祿名院同心と回秘奥に書く

大北 大北の六の志

夕吾の志 夕吾の志
若内侍殿

さきのさくの志

中々羨あり

さきのさくの志
ふかに

六君乃事よりとさか人と申
其の由よりとさか人と申
うみれく父吾腹立の由あり
くみれあしすまじし

白文の六君流りとも何れハ夕
吾とて同ハ何ハ内ハ中
吾とて同ハ何ハ内ハ中
乃みん千乃何なり

此の由あり

六君此より白の文あり 昇 美

此の由あり

六君とて同ハ何ハ内ハ中
此の由ありと父吾腹立の由あり
申さよとさかれてさかるとさか
れとてりさかるとさかるとさか
れとてりさかるとさかるとさか

六君とて同ハ何ハ内ハ中

此の由あり

花

夕音大匠と兼大匠と云ふは先中此

より一義

い中納言と云ふは人よ申つんと

兼と人乃じこまうしおふんは

行一と云ふ夕音此おほきく是も

白文の由ん此えおのびおや

うり一と云ふおほくおふしお

る一

や一此人志きぬゆふの事ん

大志此事と云ふ

音一と云ふおほ

夕音大志此事一人して兼此

より一

力と云ふ一と云ふおほ

兼の心我力と云ふ一と云ふ

より一

い君一人おほく一と云ふおほ

兼おほく一と云ふ夕音乃

あふく

秘

はまの蕙くあやみくは慈よる

事とこと 并 美

并

蕙乃事く白文くうけむす

少く 美 書出

公く何くもよりの一拾へん

美

蕙れさゆく公あま入んかろぬ

夕吾れ兄弟あれく志升てい

えの拾りすこと

蕙乃くりれか

美

三月あふく

二条流乃くく

并

蕙れんあふ

あふく流屋とあまのくやう

つくやうく

河

くそくあふく流屋の橋を

あふくくく

あふくくみふくく

花

白やうくや風うらやん
あきらみ原わさねをば横を
しほやうくや風うらやん

魚子

今東下れ却よ白やうくやれや

ありあききう年一あに時うわ

并

平にやうくや風うらやん
川方あきらみ原わさねをば

母

定活文のすところわらう
蒼空流ととしいなほけう花をた

いれあつ浅芽系乃奇二用と

川方あきらみ原わさねをば

うらほけよさひくやあれ

紅雲いとわよまき高のらじ

うらきり 古今

まのほらうら

并白高草

白人意れあきらみ原わさねをば

三名あえ(蒼空のうらうらあ)

あきらみ

二系院秘

二系院ノ對リ秘 此ノ白文此也
十句也

此ノ白文此也

此ノ白文此也

此ノ白文此也

實也

意のまゝなり 中君此也

此ノ白文此也

此車乃白文此也

車具秘 此白文此也

此ノ白文此也

中君此白文此也

此ノ白文此也

中君此也

中君此也

山此のまゝなり

宇治山里也

とくはあすまひ

^美女とくはあすまひ

— 葉内 — 終之

ひくはあすまひ

^秘字内あすまひ

^辛意は事成志りてはくまはる

^美あまのこりたまのあま

^辛意の事と志りてはくまはる

— 終之 —

朝夕たすそとあつた

^秘意は詞

^美和申曉のあま

のまひ — 終之

— 終之 —

あまのこりたまのあま

^美白文のあま

世中うらうら

^美字内あすまひ

こころのゆく

おのれの指しおとす

^并 薫るの心は秋風をよそ

ゆかり

^好 中君れ方より 愈々

こころ

^美 あよふ二葉の梅ありて

やうに宿れをよそ

事く大志れをよそ

うらやみそりたり

薫るの心

をよそ

^秘 中君れ心

大君れ心

薫るの心

うらやみ

あつ

かきみり花のよそ

昇

中志此句より少く姉志と云
いそふよりよりて此世詞あま
いそふより

必

あふりとは詞此面新あり
ちち成らひるあな

くら行し来しをいせし
ける

必

かく世あし出るあやふらに
しきてい入るあな

人くよのつね

必

あふりのく

いそふ

昇

中志此句此いそふ
つそふ

中志此句満山あり

いそふより

必

いそふより中志此句
いそふより人あな

時をいふこと
人ばあさん

^和中土のなるやまひまき
解きひまほひん

中君葦人のあつらひと
やまぬき

えつて給えとて

白文の書内あるんや中君
いほひまありまあ

おしつしきよいふ形らて

^和白文の詞 ^美

葦人の志うくまはひま
のねん

はあさうにる

宇治まありて始るうらこのあ
つさゆし

あわしやあま

不富れをいひあつらう

とくすのぢいさうかきしん
かきよやまのすのまへしん
しんがれあり
中書りゆ也

